

令和7年度 第5期鶴見・あいねっと策定検討プロジェクト（第4回） 議事要旨

日 時：令和7年12月12日（金）14：00 から 16：00

場 所：鶴見区役所1階予防接種室

委 員：芦澤委員、石井委員、板山委員、祝出委員、大野委員、押山委員、
小林（政）委員、齊藤委員、清水委員、巴委員、八森委員、
浜田委員、日向委員、松坂委員、宮野委員

事務局：【区役所】岩田福祉保健センター長、高橋福祉保健課長、
福祉保健課事業企画担当 高菱係長、岩本職員、宇佐美職員、加藤職員
【区社会福祉協議会】高橋事務局長、大川事務局次長、河野職員、上屋敷職員

1 開会 （進行：福祉保健課長）

- ・ 本日の流れについて説明。
- ・ 写真撮影の承認及び議事録のホームページへの掲載について確認。
- ・ 配付資料の確認。
- ・ プロジェクトメンバーの所属の変更について

小林会長が12月の民生委員一斉改正にて会長を降りられたが、策定完了となる今年度までは民生委員代表としても引き続きお願いしたいと思います。ご承知おきください。

2 鶴見福祉保健センター長あいさつ

本日はお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

本日は、8月の推進委員会で意見をいただき、第5期鶴見あいねっと計画冊子素案を作成し、10月20日～11月20日に意見募集をいただいた。意見募集の内容や今回の策定プロジェクトの意見を踏まえ、最終版としていきます。

来年のあいねっと推進委員会にて完成版として最終のご承諾をいただく予定でございます。本日も様々なご意見をいただきたく、どうぞご協力をお願い致します。

3 今年度の予定及び本日のプロジェクトについて（説明：事業企画担当係長）

区計画は、市計画から2年遅れとなるため、昨年度から策定の検討に入っています。ゴールとしては、7年度中の策定完了です。それに向け、昨年度は区計画の目指す姿や3本の柱などについて記載した「方向性」を確認いただきました。

今年度の具体的な予定については、資料2のとおりです。①6月に開催した策定検討プロジェクトでは、素案の検討という位置づけで皆さまで活発な議論をいただき、それを踏まえて②8月に開催した推進委員会で素案としてご確認をいただ

きました。

その素案については10月20日から11月20日まで区民意見募集を行いましたので、③本日の策定検討プロジェクトで、その結果を共有させていただいた上で、それを踏まえた計画原案について確認いただきます。

本日いただいたご意見により計画を完成させ、④1月30日の鶴見・あいねっと推進委員会で承認いただきます。

最後に⑤3月20日実施の鶴見・あいねっと推進フォーラムにて第5期計画をお披露目するという流れで今年度進めて参りますので、ご承知おきいただけますと幸いです。

本日は、前半の部分で区民意見募集結果をご説明させていただき、その流れで原稿案についてご説明させていただきます。本日も説明するのは、計画の最終案となります。そして後半では、第3回策定検討プロジェクトに引き続き、あいねっとがより身近な計画になるよう、またより様々な人にこの第5期あいねっとの内容を伝えていくためにという観点からご意見をいただければと思います。

4 議事（進行：八森先生）

これまでの策定検討プロジェクトにて素案について検討し、その中で本日第5期計画の原案ができました。その内容についてみなさまより意見をいただきたいと思います。

まずは、区民意見募集の結果についての説明を事務局からお願いします。

(1)第5期計画区民意見募集結果について（説明：事業企画担当係長）

区民意見募集結果を報告します。まず、意見募集について「1 実施概要」としてまとめおります。本会議の冒頭でも説明したものと重複しておりますので、細かい説明は省略いたしますが、ここに記載のある周知方法の他に、例えば駅やスーパーマーケットなどに交渉をしてみて、配架に御協力をいただきました。

続いて、「2 実施結果」です。今回は31名の方から39件の意見をいただきました。前回の第4期計画の時は37件だったので、件数は概ね変わらないのですが、前回の人数は11名でしたので、前回と比べると多くの方に御意見いただきました。

「(2)項目別意見数」として、意見を項目分けしています。柱3が突出しておりますが、他は全体的にバランスよく意見をいただけたかと思っています。

続いて「3 意見の主な内容と意見への対応の考え方」に対応分類別意見数を集計しています。いただいた意見について、反映可能なものは、文章として盛り込んだ際にバランスが偏りすぎないように文量には配慮もしながら記載いたしましたので、分類「①計画案に反映するもの」が多くなっています。

またこの第5期あいねっとの内容に直接関係しない御意見などは「④その他ご質問など」に分類しています。

「(2) 対応分類別 意見と対応の考え方」ですが、意見募集を踏まえた原稿の修正について説明する際に触れさせていただきますが、全体を通して反対意見は少ない印象でした。

いくつかご指摘いただいた「〇〇分野について記載が足りない」という御意見についてはできる限り反映しています。また第5期素案の文章に係る意見というよりも今後の取組の充実に向けた御意見の場合は、「③計画の推進の参考とさせていただくもの」に分類しています。

(八森先生)

区民意見募集の結果について説明がありましたが、具体的内容に関する意見については、原稿の修正についての説明で触れていくとの話なので、続けて「第5期あいねっと原稿」の修正について事務局から報告をお願いします。

(2) 第5期計画原稿について

ア 区民意見募集結果を踏まえた原稿の修正点の説明

(ア) 柱1について（説明：区社協事務局職員）

柱1に関してのご意見は区民意見募集結果の項目 NO. 18 にありますが、「移動販売に行けない方はどうすればよいのか」とご意見をいただきました。「意見への対応の考え方」にも記載がありますが、現時点では区内12か所で実施しており、最新情報は横浜市ウェブサイトで確認できますので、その旨記載しております。文面に関しては、冊子14ページのとおりに、取組は地域の住民の方々が主体で行われていることや、買い物支援を通して見守りやつながりづくりを目指していることを記載するなど、移動販売の趣旨や意義について強調する形の修正を行いました。

(イ) 柱2について（説明：事業企画担当職員）

いただいたご意見を受けて、①こどもに関する部分と②生活困窮に関する部分に修正を加えました。まず、こどもについては、18ページ「取組例」を、より充実させました。当初は「子育て支援・放課後児童育成の推進」というタイトルでしたが、「子どもの健やかな育ちと放課後支援の推進」という表現に改め、赤ちゃん会、保育園の園庭開放、子育て相談事業、学齢期支援講座などを追記しています。

中学生への学習支援についても「寄り添い型」を追記するなどの修正をしています。

さらに 19 ページ「取組例」では、当初、高齢者や障害者の権利擁護を中心に記載していたのですが、「子どもの権利擁護支援」を加えた上で、その中身として、児童虐待防止や子どもを守るネットワークによる支援の推進、専門職による相談対応、支援を必要とする小中学生への寄り添った生活体験の提供などを記載しました。

続いて、21 ページ上段のコラム「子育て支援の取組」では、子育て支援の取組について紹介した後、「その支え合いの中で、貧困やひとり親、発達にかたよりのある子など、支援が必要な子や親の孤立を防ぎ、虐待やいじめ等、深刻な問題に発展しないようサポートしています。」という文章を追加しました。さらに、その下にこども虐待防止のキャラクター・キャッピーのイラストを掲載し、二次元コードで横浜市の児童虐待対策のページに飛ぶようにしています。

最後に 22 ページ上段のコラム「生活困窮者支援の取組」では、生活困窮に関する記載の後に二次元コードを貼り、横浜市の生活困窮者自立支援制度のページに飛ぶようにしています。

(ウ) 柱3について

区民意見募集結果の項目 NO. 1 にありますように、「歯科保健の重要性」についてご意見を頂きましたので、ご意見を反映させた内容に修正しました。

23 ページ「自分で・家族で」の4つ目に「歯科検診」という表現を追加し、「定期的に健診、歯科検診を受けて自分の体の状態を確認しよう。」という文章に変更しました。

また、歯磨きをしているあいねとちゃんのイラストを新たに作成し、吹き出しのセリフとして「食べたら歯磨きしよう」という、皆さんへの啓発となるメッセージを追加しています。

続いて 25 ページの「取組例」の二つ目「学校や企業等と連携した取組」に「歯周病やオーラルフレイルの予防啓発」を追加しました。

(エ) その他の修正した点について（説明：事業企画担当係長）

6 ページ「鶴見区ってどんなまち？」について、民生委員一斉改選により充足率の数字に変更がありましたが、引き続き 18 区中第 1 位を死守しています。また、日向委員に情報提供いただいたのでご紹介いたしますが、6 ペー

ジ「老人クラブ設置率」について、先日全区の数値がまとまりましたので、更新しています。具体的には3位の区が変わったのと、全市平均が47.0%と入っていましたが、46.6%に更新されました。こうして市平均と比べてみると改めて鶴見区の老人クラブは盛んであるということが際立っています。

(八森先生)

原稿の修正について説明がありました。意見募集結果を踏まえつつも、全体のバランスを考えて、必要な内容を盛り込んだのではと思います。

あと、皆さんも一番気になっていると思いますが「第5期あいねっと原稿」はデザインが入っているので、この点について事務局から報告をお願いします。

イ 表紙・裏表紙デザインの説明（説明：事業企画担当係長）

ご覧いただいて一目瞭然だと思いますが。前回の策定検討プロジェクトや推進委員会では、職員のお手製の資料でしたが、今回からデザインを入れています。デザインについては、三者三様と言っていいほど人によって意見・評価が分かれるところだと思いますので、デザインそのものについての意見を伺う形をとらせていただくというより、今のデザインでまとめた意味合いなどについて説明させていただきますので、その考えについてご理解いただければと思います。

前回と変わっている点で申し上げますと、31ページから66ページにかけて地区別計画が入っています。この部分は9月末完成を目指して、地域の方々が主体的に、自分たちのまちの道しるべとなるようにとの意味を込めて策定したものとなります。各地域の方々がまとめたものとなりますので、当初から文章を修正するのは想定しておらず、本当にいただいたままの文章が入っています。

そういった前提を踏まえていただきまして、ここから中身の説明に入っていきます。まずは表紙・裏表紙のデザインについて、その意図を説明させていただきます。

頭に思い浮かんだのは大きく二つです。一つは特に昨年度からプロジェクト委員からいただいた「とにかくキャッチーに、一目見た時に「興味を持ってもらったりだとか「手に取ってみよう」と思ってもらえるような」というご意見です。

具体的には昨年度『「鶴見で幸せに暮らすためのガイドブック」と皆さんに思ってもらえるようなもの』とか、極端なイメージで言うと「ラーメン1杯100円」みたいなお話もいただきました。

そしてもう一つ思い浮かんだのは、地福計画を作って約20年経った中で、や

はり今まで担い手だった層が「自分たちは置いて行かれた」みたいなことを思わないか、寂しさを感じないかどうかです。この二つは少し両立が難しいと思いましたが、ちょうど押し出そうとしていたあいねっとちゃんが良いアクセントになるだろうとの思いから、確認いただいているようなイメージに仕上がりました。ぱっと思いついた感想もそれぞれおありかと思いますが、具体的な考えを説明させていただきます。

まず、なんとなく鶴見区っぽく、イラストで表しています。あえて「なんとなく」と説明しましたが、このなんとなくが重要で、鶴見区にある建造物などを忠実に再現しようとすればするほど、たとえば「この神社の形はこうではない」のような御意見をいただいてしまうので、あえてちょっとぼんやりとさせていて、見た方が「もしかしたらこれってあの神社かも」とか「自分の住んでいる地域に重ねてイメージできる」と思えるようにしています。

そしてただ鶴見の様子をイラストで描くのではなく、あいねっとちゃんがまちの中で日常生活を送っていて、それがそれぞれ柱の1～3の要素なんだということを、各種あいねっとちゃんのイラストで示していると共に、表紙の建物に柱1～3をそれぞれ示す「つながり」「たすけあい」「すこやか」を看板でさりげなく表示しています。アルファベットで「TSURUMI」と記載した、区役所と思われるような建物もあります。

あとはタイトル部分です。鶴見区地域福祉保健計画と鶴見・あいねっとを書き分ける形で「鶴見・あいねっと」を際立たせています。そして基本理念の「たすけあい・支えあい・人と人とのネットワーク」はあいねっとの語源でもあるので「鶴見・あいねっと」の近くに表記しました。

また、表紙全体にいろいろな仕掛けをしたとしても、結局冊子を格納してもらえそうなラックに入れた時には表紙上部の1/3程度しか見えないため、その部分に基本理念の他に、何かキャッチーなコピーを入れることにしました。

この部分の説明で最初に申しあげたように、「今まで地福計画に関わってくれた方が置いて行かれたと思わないように」という制約の中、どこまで表現できるかと考えた時に、ちょっと尖った表現というよりは、柔らかい表現にしたいと思いました。

例えば、就職したりだとか子育て期に入ったとかで、周りに支えられていると感じている方にとって、例えば「つながりは必要」みたいな直接的なメッセージではなく、「つながってみよう」のように提案の形ではありますがほんの少しだけ負担感も感じてしまうようなメッセージでもなく、「つながるってちょっといいかも」という、ふと共感できるような「ああやっぱりそうなんだな」「自分もそう思い始めたけどあっているんだな」と心の中で答え合わせをできるよ

うなフレーズを選択しました。

その上で、「鶴見で幸せに暮らすためのガイドブック」と思ってもらえるようなというお話もありましたが、かみ砕いていうと、この「鶴見区地域福祉保健計画」ってどんな冊子であるというのが、「福祉」とか「保健」という、例えば若い方が「福祉って自分には関係ないな」「保健って関係ないな」と思ってしまいがちな直接的なフレーズを使わずに、この冊子がどういうものかを伝えるにはどう表現すればいいかということを検討しましたが、結論としては昨年12月に本プロジェクトでおっしゃったフレーズ「鶴見で幸せに暮らすためのガイドブック」をそのまま採用させていただいております。これと、「つながるってちょっといいかも」というフレーズにより手に取ってもらえるような仕掛けができたと考えています。

(八森先生)

福祉っぽくない言葉を入れて、みんなが気になる言葉にしようというのを採用し、「鶴見で幸せに暮らすためのガイドブック」は今までの意見を盛り込んだものだと思います。「ウォーリーを探せ」のようなわくわく感もあってよいと思いますが皆さんはどうでしょうか。

続いて、中身もデザインが入っていると思うので、それについて、事務局から説明をお願いします。

ウ デザインについて (説明：区社協事務局次長)

冊子のデザインでまとめたという意図についてご説明いたします。デザインについては、8月の推進委員会で推進委員の皆さまにご確認いただいた事務局作成のものをベースに、デザイン事業者さんの御協力で、さらにバージョンアップされたものになっています。

工夫ポイントとしては、冊子を開いた際に、どこを見ているのかが分かるようになったというところです。

例えば、3ページの目次をご覧ください。ページの本数に合わせたように、各ページ番号の横に、今、どこを読んでいるかが分かるような表記をしました。合わせて、ぱらぱらとめくった際にも視覚的にわかりやすいように、右側の端部分にも1章から5章までの目印をつけています。この目印は、目次の色に合わせて、例えば1章はピンク、2章はオレンジというように、章ごとのテーマカラーを設け、視覚的にもわかりやすくなるよう整理しました。

また、右上の帯にも加工をしています。基本は「鶴見・あいねっと」のロゴ

となりますが、9ページから始まる3章については、柱1「つながり」、柱2「たすけあい」、柱3「すこやか」をこの部分に表記することで探しやすく、分かりやすくしています。

さらに、第3章の柱1、2、3のデザインについてですが、当初、事務局としては、第4期とどのように3章の「柱立て」としての位置づけとしていたが、デザイン事業者さんにデザインを依頼した際に、この柱を建造物の柱としてデザインした成果物を受け取りました。建造物としての柱を用いているのは18区ある中で鶴見区だけなので、特色が出ると思い、そのまま採用しています。7ページでは各柱が屋台骨になって「めざす姿」や「基本理念」を支えるという神殿風で表現もしています。

その他、以前からお伝えしているように、あいねっちゃんのイラストを各所にちりばめて、コメントを吹き出しで入れるなどのデザインが加わり、フルカラーだからこそそのメリットを存分に生かした内容にしています。

（八森先生）

意見を踏まえて、形になったかと思います。章ごとにテーマカラーもあり見やすいと思います。ここまでの説明でご意見があればお話をお願いします。

（大野さん）

すごくブラッシュアップされておりよいのではないかと。ぱっと手に取りやすさと、ガイドブックと入れたのはよいと思う。少し文字が多いかと思う部分もあるが、概ね良いかと思う。

（八森先生）

文字は事務局も苦勞した上で少なくしたと聞いています。大事なところはイラストなどで表現したのはよい工夫だと思います。皆さんどうでしょうか。

続いて、地区別計画についてご説明をお願いします。

エ 地区別計画について （説明者：区社協事務局職員）

地区別計画のページの構成については、29ページ、30ページが導入部分、31ページからは18地区の地区別計画を掲載しています。

導入部分の29ページには鶴見区の特徴を表したマップ、30ページは各地区のキャッチフレーズを掲載しており、前回から大きな変更はありませんが、各地区のキャッチフレーズについては、素案時点では仮で第4期計画のものを掲載していましたが、半数程の地区が第5期で新たなキャッチフレーズを設定し

ていますので、その部分が変更点となります。31 ページからの 18 地区の地区別計画については、地域の方が策定されたものであるため、文章の修正はしていません。

ページの構成については 1 地区ごとに 2 ページで、左側のページにキャッチフレーズと、第 5 期計画で力を入れたいこととして、2 つから 3 つの目標と具体的な活動内容、関連する写真を掲載しています。右側のページに第 5 期計画策定までのプロセスと、第 4 期計画の振り返りの他、地区の名所や代表的な行事等その地区ならではの写真を大きく掲載し、目をひく内容になっています。

策定までのプロセスについて、私が担当させていただいている生麦第二地区を紹介すると、地区懇談会で第 4 期計画の振り返りや、今後取り組みたいこと等の意見交換を実施した他、広く地域の方の声を聴くため、地域ケアプラザのお祭りで「これからどんな町になってほしいか」のアンケートを行うなどして、地域の皆さんで作り上げたものになっています。

他の地域も多少の違いはありますが、同じように地域で話し合いをして、地域の方の意見を踏まえて、地域の皆さんがすべて文言を作成された地区もあったり、必要に応じて事務局がサポートさせていただくなどして第 5 期地区別計画が策定されました。

（八森先生）

地区ごとに大きな写真があるのはいいと思います。地区によっては写真を 4 枚にするなど、各地区の検討のプロセスを優先して、何とかデザインの構成を考えられたのではと思います。文字数など地区によってこだわりの部分がありますが、そこは地域を尊重しつつ出来上がったものだと思います。全体的に見やすくなっているかと思います。

続いて、コンパクト版についてもご説明をお願いします。

オ コンパクト版について（説明：事業企画担当担当職員）

第 4 期計画では、A4 サイズの概要版を作成していました。地域のお祭り等で配る機会が多いのですが、なかなか A4 サイズでは受け取っていただくのが難しいという状況がありました。

一方で、以前、ポケットサイズのパンフレットを作っていたのですが、こちらはお子さん含め、幅広い世代に気軽に受け取っていただけたという肌感覚があります。ただ、かなりミニサイズで文字が小さく、高齢の方にとどこまで読んでいただけるのだろう、という不安もありました。

そこで今回は両者の中間のサイズとなる、A4 二つ折りのコンパクト版を作成

しました。まず、表紙は本冊子と揃え、両者が一体のものであるということが一目でわかるようにしました。

中身を開いていただくと、まず左上の吹き出しの部分で、あいねっとの説明を掲載しています。当初は「福祉と保健の計画だよ」という表現だったのですが、よりわかりやすく「だれもが安心して、自分らしくすこやかに暮らせるまちを『みんなで』作っていくことをめざしている計画だよ。」という説明にしました。その上で、『「みんな」って誰?』と思う方もいらっしゃるかと思い、右下の吹き出しで「手にとってくれたあなたも仲間だよ!」という表現で、一人ひとりに関わること、自分ごととしてとらえていただけるようなメッセージを込めました。

左下の「鶴見・あいねっとの取組をのぞいてみよう」以降は、3つの柱の内容を簡単に紹介しています。本冊子で言う「自分で・家族で」の部分を中心に、「例えばこんなこと」として「まちな行事に参加してみよう」、「いつものあいさつに『プラスのひとこと』をつけてみよう」、「疲れたときはここからだをしっかりと休めよう」など、身近にできる取組を例示しています。

挿し絵については、人物のイラストを載せるのが一般的だと思いますが、ここは思い切って、あいねっちゃんイラストで統一しました。人物に比べるとやや抽象的にはなりますが、ポップで親しみやすく、手にとって読んでみよう、という気持ちになっていただけることを最優先に考えました。

最後の右下の部分では、区全体計画と地区別計画の関係性を図で示し、目指している方向は同じであることを説明しています。

より詳しい内容を見ることができる二次元コードを貼付し、冊子の置き場所についても掲載しています。

全体として、このサイズで最大限文字を大きくすることに苦労しました。あいねっちゃんの吹き出しの中は、当初、漢字にるびを振っていたのですが、文字が詰まって見えづらくなってしまうのですべて平仮名に変えましたが、お子さんや外国の方にも読みやすい、「やさしい日本語版」にもなったと考えております。

(八森先生)

冊子として推進していくには役に立っていくツールだと感じました。

みなさんいかがでしょうか。

(八森先生)

計画は本日確認した内容で1月推進委員会で決定しますが、今後どのように推進していくかが大事かと思います。ここからグループワークに入っていきたいと思いますが、現段階で事務局が検討している広報・啓発ツールについて説明をお願いします。

カ 広報・啓発ツールについて（説明：区社協事務局次長）

第5期計画のお披露目会である3月のあいねっと推進フォーラムでの広報が区民の皆さんに向けて第5期計画を広報する最初の機会となります。詳しくは来月の推進委員会で上映いたしますが、映像などで見ていただくのが分かりやすいと思い、現在、事例発表の動画を作成しています。あわせて、わかりやすく伝わりやすくするために、第5期計画が目指しているものの具体的な地区の取組を紹介するための動画も作成しています。

また、広報よこはま鶴見区版あいねっと特集記事を検討しており、来年度前半の掲載に向けて調整しております。

その他、各地区で開催する地域ケアプラザまつりなどのイベントで引き続きあいねっと支援チームとしてブース等を運営し、啓発を行っていきたいと考えていますが、鶴見図書館での期間限定あいねっと特設コーナー設置などの今まで行っていなかった取組も検討しています。そうしたイベント等の際に飾れるように、壁などに吊り下げて使用する織物でもある「タペストリー」を作って、各地区別計画や区計画の情報を周知していきたいと思っています。

また、その他のグッズとして、あいねっとがプリントされたサコッシュの作成を予定しています。あいねっとに深く関わってくれている方限定でお配りすることで、日々身に付けてあいねっとを広報いただけるのではないかと考えています。

以上のようにいくつか事務局として考えていますが、事務局だけではアイデアや人手の面でも限界があるので、プロジェクトの皆さまのお力も是非借りたいと思っています。

今回のグループディスカッションでは、「策定した後に、よりたくさんの人にあいねっとを知ってもらうために推進委員ができることを考えてみる」をテーマとさせていただきたいと思っています。現実的にできるものももちろんご検討いただきたいと思っていますが、是非、自由にアイデアをご発言いただきたいと思います。

ただ、大きいことであればあるほど、少なくともすぐには実現できないので、その点だけご留意いただけると事務局としても幸いです。

(八森先生)

さらにこのような場で伝えていった方がよいことや、こんなグッズがある等も話していただければと思います。区民の皆さんが参画してもらえるような意見が出ればよいと思います。

色々なアイデアの提供をお願いします。

(3) 意見交換

テーマ「第5期鶴見・あいねっと」を多くの人に知ってもらう・伝えていくために、できること

【視点】

- ㊦「あいねっとの取組の大事さの伝え方」
- ㊩「啓発物・啓発ツールのアイデア」
- ㊵「新たなコラボレーションによる啓発」

(A グループ)

㊦について

- ・ボランティア団体の中には、あいねっとが具体的に何かまで理解しきれていない団体も多いかと思う。改めて、伝えていく必要がある。
- ・町会向けイベントやお祭りなどでコンパクト版を配布するといい。
- ・スポーツ推進委員も自分たちの活動が、あいねっとの柱のどこに紐づいているか、意味づけしていく必要があり。説明をし、具体的に理解して伝えていくことが必要。
- ・自分事になるにはどうしたらいいか。地域の一員である実感をもつことが難しい。地域に入っていくことが「怖い」と感じる人もいるかもしれないが、自分ができる「取組」をひとつひとつ進めていけたらいい。お祭りに参加することで実感につながる。
- ・地域ケアプラザも推進、広報を進めていく立場である。また、区への転入者へ地域情報を発信する意味合いで地区別計画も一緒に渡せると良い。それが地域を知るきっかけになる。
- ・若い世代へどう発信するのだが、困まりごとがあれば、関心が出てくる。自分事になる。関心がない層にもいつかは届くように、これまで大切に伝えてきたことはこれからも伝え続ける。

★隣同士で声を掛け合うことの大切さ・伝え続けていくこと、助け合うこと★

④について

- ・プロモーションが大切。「あいねっと」の言葉を何度でも聞くと効果的。
- ・冊子の表紙について「わっくんを探せ」などメッセージを伝えると手にとってもらうことにつながるかもしれない。

⑦について

- ・区の後援名義申請の際に、「あいねっと」のどこに紐づいているものを記載する。許可する場合は、必ずコンパクト版を配布するような仕組みに変える。
- ・支援学校とその周りの地域は交流があるが、通う児童の居住地での交流はあまりない。コンパクト版など、あいねっとを通じて、その児童、家族が地域とつながりを持つ取組ができればいい。
- ・わっくんとのコラボ化。缶バッジ、サブレ、シール帳を作成するなど、こどもが欲しいものがあいねっとグッズ化されると、親への発信になる。
- ・募金のときに、犬と一緒に活動したら募金が増えた。似たように、ペットのイベントとコラボはどうか。
- ・理解ある企業にあいねっとちゃんイラストを使用してもらおう。優良企業ステッカーのようなもの。
- ・麒麟ビール、森永とコラボ。
- ・あいねっとちゃんイラストはフリーで使いたい。

(B グループ)

④について

- ・短いフレーズの歌「さかな、さかな、さかな〜♪」のような一度聞くと耳から離れない曲を区役所やスーパーで流してもらい、あいねっとに興味や関心を持つきっかけとしてもらう。
- ・若い世代へのアプローチでは、紙媒体で読んでもらうのは難しい。まめっこひろばでもパンフレットを手にとってもらうのはクーポンなどお得なものがついていないと、必要な情報を二次元コードで読み込んで元の場所に戻されてしまう。HPなどにアクセスして、コメントや写真など投稿できる場があると若い人もあいねっとに親しんでもらえるのではないか。
- ・啓発グッズとしては、のぼり旗、あいねっとハイチュウ、あいねっとちゃんの着ぐるみ、風船、ボールペン、きらきらシール、うちわ、推し活グッズとしてバッグに着けられるもの。女子高校生は推し活として、バッグに着けることが多いのであいねっとちゃんをつけてもらえるとよい。

㊦について

- ・ 鶴見三大祭り（臨海フェスタ、三ツ池フェスティバル等）での啓発ブースの出店
- ・ コンパクト版の配布先を増やす。地域の行事、介護者の集い、GREEN×EXPO、鶴見区制 100 周年での配布
- つるみ子育て個育ちフォーラムなどの団体
- ・ あいねっと展示コーナーやブースの設置（ケアプラザ、地区センター等の公共施設、区役所）
- ・ 子ども会、商業施設（イトーヨーカドーなど）
- ・ タクシー、バス、JR 鶴見線での広告
- ・ ピンクの T シャツはつるみ子育て個育ちフォーラムというように定着しつつある。
〇〇といえば、あいねっというように地道な周知をしながら定着できるとよい。
- ・ 難しいかもしれないが、子どもたちに知ってもらう機会を作るために学校にアプローチをしてみても（卒業式や運動会などの行事）

その他

- ・ あいねっと週間を設けて、18 地区一斉にイベントを開催するなどを行うと、あいねっとも広まる。今はあまりあいねっが知られていない。ただ、地域もこれ以上イベントを増やせないから既存の取組をあいねっと週間で実施が良い。

(C グループ)

アについて

- ・ あいねっについて知らない人が多い。老人クラブの会議でも知っている人が少ない。
- ・ 配布物が少ない、行き届いていない可能性がある。
- ・ 自分自身もこの場に来るまで、「あいねっ」という言葉は聞いたことがあったが、中身は知らなかった。
- ・ 地区の会長会議などで説明して、広げていく必要がある。
- ・ 今回「データ編」が登場したが、「老人クラブ設置率 NO.1」などは胸を張って誇れる数字なので、データ編を活用してアピールしていきたい。
- ・ お祭りなどで魅力的なグッズとともにコンパクト版をまいて、まずは知ってもらうことが大切。
- ・ 地域のサロンなどに出向いて周知するのもよい。
- ・ 小中学校の総合授業の時間を利用して、出前講座を実施してはどうか。学びにつながるので、学校の協力も得られると思う。
- ・ 「あいねっ祭り」「あいねっでできました祭り」を開催したら盛り上がるかもしれ

ない。

- ・①あいねっとの中身を伝えていく必要と、②わからなくても「あいねっと」自体を広めていくことも必要であり、両者を並行して進めていくことが重要。

④について

- ・視覚障害者は触覚で感じ取るので、小さいあいねっとちゃんを手にとって触れることができるとうよい。シールは子どもが喜ぶ。マスコットキーホルダーは女子高生が好むので「バズる」かもしれない。
- ・ポシェットは子どもが喜ぶ。高齢者向けにはマグネットがよい。
- ・缶バッジも気軽につけることができ、可愛い。
- ・「幸せに暮らすためのガイドブック」という表現はとても良い。フォントをもう少し大きくする、枠で囲むなど、もっと目立つようにしてもよいと思う。
- ・「あいねっと」だけでは浸透しづらいので、「ガイドブック」という表現がわかりやすくてよい。手にとってみようと思う。
- ・コンパクト版を区民全員に配り、「詳しいことは町会に置いてあります」と誘導。町内会館に冊子を配架する。
- ・動画でも、データ編の部分をうまく使えるとうよい。データは皆が「へえ～」と思う内容。いきなり計画に入るのではなく、みんなに見てもらえるような構成を考えてほしい。あいねっとちゃんを前面に出してライトな感じにしてほしい。
- ・X や LINE の活用も考えられる。

その他 冊子に関する感想

- ・オールカラーでとても見やすくなった。
- ・地区別計画の写真もよい。潮田の大きなお祭りなど、これを見て初めて知った。地区ごとのカラーが出ていると感じた。

(4) 意見交換振り返り（進行：八森先生）

様々なご意見がでましたが、まとめるのは難しいのではないかと思います。マーケティングもしっかり話し合われ、対象はどのような人で、入り口は〇〇でと具体的なアイデアも出ました。女子高生は〇〇グッズが良いという意見や、若い世代には SNS がいいなど、しっかりとマーケティングがなされているとも感じました。今後、鶴見にはテーマソングが流れ、女子高生がグッズを持つイメージも浮かんできました。今日で体験の中から年間で5つずつくらい実現できるように進めていただけるとよいかなと思います。

最終的には隣同士で声を掛け合うことの大切さ・伝え続けていくこと、助け合うこ

と、気持ちが大事との本質的な話が出たのもよかったです。

来年の推進委員会で報告がなされると良いと思いますので、事務局は準備をお願いします。

(5) 事務連絡

第2回あいねっと推進委員会は1月30日（金）に実施し、場所は6階会議室となります。時間は同じく14時から16時で実施する予定です。

次回推進委員会で計画の完成版としてご説明させていただき、推進委員の皆さまにご確認・ご承認いただくという流れで進めて参ります

引き続きご協力をお願いできればと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。お手元にアンケートを置いております。お手数をおかけしますが記載についてご協力をお願いいたします。

5 閉会 （説明：福祉保健課長）

本日の策定検討プロジェクトは閉会いたします。ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。本日の議事録は、後日ホームページに掲載します。内容の確認については、事務局に一任いただきたいと思います。

また、昨年度から4回にわたって実施したこの策定検討プロジェクトもこれが最後になります。皆さまにおかれましては、この2年間に渡りまして策定に携わっていただきありがとうございました。推進委員の皆さまは来月に今年度最後となる推進委員会がありますが、策定検討プロジェクトのみ参画いただいている、大野さん、勝呂さん、浜田さんは5期策定に係る会議はこれで最後となります。2年間に渡って、貴重なアドバイスをいただきありがとうございました。

以上